



認定NPO法人 地球の友と歩む会／LIFE

2024年度 年次報告書

発行人： 横山 計三
発行： 特定非営利活動法人
地球の友と歩む会/LIFE



農業研修に参加し、野菜を作れるようになった農家さん
場所：インドネシア・スンバ島・レワ地区の研修農場

2024年度は、村人たちの現金収入の機会を作るために野菜作り、ライム栽培、キノコ栽培を行いました。野菜やキノコを作るにもライムの苗木を植えるにも水が必要です。今は手で水を汲んでいるので畑の面積を広げられなかったり、雨季に入って雨が降るのを確認してから苗木を植えるなど制限があります。このようにスンバ島では常に水の問題があります。昨年度はこれらの問題を乗り越えるために開発してきた川から水を汲み上げる装置（水車ポンプ）がついにスンバ島での実験に成功しました。今後は村で実際に使ってみて改良を重ねていきます。

また、昨年はスマトラ島の大学からご招待いただき、スンバ島での活動をお話する機会がありました。大学生の皆さんは同じインドネシアという国の中にここまで貧しい島があるのかととても驚いていました。そして、スンバ島のために何かしたいけど遠くて行くことができないと残念がっていました。この大学訪問は、同じインドネシア人にスンバ島を知ってもらえる良い機会になりました。



■略歴

1994年：LIFEのスンバ島勉強会に参加
1995年：第6回スンバ島ワークキャンプ参加
2012年：職員として入局
2023年：事務局長に就任

ビジョン

ミッション

【ビジョン】

インドとインドネシアの農村の人々が自然と共生し自立して暮らせる社会を目指します。

【ミッション】

私たちとビジョンを共有する現地NGOと協力し、「水・緑・人」をテーマに支援します。

支援方針

- 1 水・緑・人で国際協力
- 2 現地の問題は現地に住む人々が解決する
- 3 地球の友としていま私が出来ることをする



役員

(2025年7月時点)

理事長	横山 計三	芝浦工業大学
理事	米山 敏裕	特定非営利活動法人ホープ
理事	岩田 雅子	やまだ株式会社
理事	上村 真	富士電機株式会社
理事	鷲見 香子	自然電力株式会社
理事	黒岩 竜太	株式会社オルター・トレード・ジャパン
理事	下山 久光	アイ・シー・ネット株式会社
監事	浜走 弘之	社会福祉法人恵和

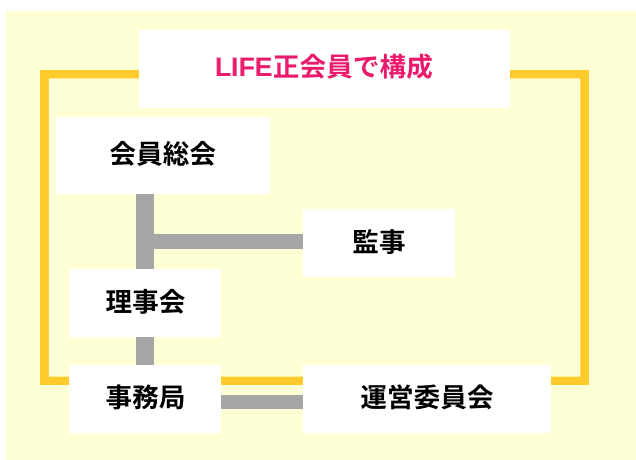


沿革

1986年	アジア協会アジア友の会東京事務所として設立
1990年	インドにて井戸建設の支援および現地との交流を開始
1992年	スンバ島にて植林活動および現地との交流を開始
1999年	「地球の友と歩む会」として独立、NPO法人格の取得
2021年	認定NPO法人格の取得
2023年	日本水大賞「国際貢献賞」を受賞（バリ島北部給水支援）

2026年にLIFEは設立40周年を迎えます。これまでLIFEとインド・インドネシアの事業地の人々を支えてきてくださった全ての方に心より感謝申し上げます。この40周年の節目に向けてLIFEは組織力の強化に取り組んでいます。改めて、皆様の引き続きのご支援を宜しくお願いいたします。

組織体制



事務局：職員（2025年7月時点）

事務局長
インドネシア担当 古賀麻美



会計担当 小林志帆



Topics & Contents

有機農業研修 ▶ 4ページ

ライムの苗木2,000本を植えて
成長を見守っています
▶ 5ページ



スンバ島ではほとんど食べられていないおいしいキノコ、
白ひらたけの栽培に
成功しました
▶ 6ページ

独自に開発した化石燃料を使わない
水車ポンプを3台製作し
実験を行いました
▶ 7ページ



スンバ島ポンプ開発ツアー ▶ 8ページ

日本国内の活動報告 ▶ 9ページ

会計報告 ▶ 10ページ

スンバ島農村部の所得向上支援①

有機野菜を作って売って現金収入を増やす



◀ キャベツ畑と農家さん



◀ 有機肥料作りを学ぶ



◀ 建設した有機肥料製造場



◀ ヤギは自由に動きストレスなし

① 現地の抱える問題

村に暮らす人々には現金収入の手段がほとんどありません。売れるものは村に自生する木の実か飼育する家畜、海に近いところに住んでいれば魚などです。子どもを大学などに行かせるには借金をしなければなりません。村の人たちには現金収入を得る機会が必要でした。

② 2024年度に実施した支援と得られた成果

村人たちが野菜を売って現金を得られるようになるために次のことを行いました。

① 有機農業研修の実施

② 有機肥料製造場の建設

有機肥料を作るには、家畜のフンを集め、材料の植物を細かくし、混ぜて発酵させる工程があります。有機肥料製造場では手間のかかるこの一連の作業を農家の皆さんで一斉に行います。農家の皆さんが協力して野菜作りをしたので、キュウリ、ナス、トマト、インゲン、ホウレンソウ、唐辛子などたくさんの野菜を作れるようになりました。

③ 今後の目標

野菜を作ることができるようになったので、次は野菜を買い手の人に売る活動を行います。そのために当事業に参加している農家さんたちが野菜販売のための組織を作り、販売、運搬、会計管理など役割分担をしてみんなで野菜を売れるようにします。



現地の声

自分たちで有機肥料や防虫剤を作るとお店で化学肥料を買うよりコストを抑えられます。栽培のためにかかる出費が少ないと野菜の売上金から引かれるコストが少なくなり、その分手元に残るお金が多くなることを参加者に伝えました。

—現地NGOマラダのイブ



スンバ島農村部の所得向上支援②

ライムを栽培して売って現金収入を増やす



◀ 苗木を受け取った村人たち



◀ 苗木を村へ運搬



◀ 苗木の植え付け

① 現地の抱える問題

ライムはスンバ島でも育つ樹木です。しかし、ライム農家としてライム栽培をしているわけではありません。庭に数本植わっている木から少し摘み取って売る程度です。でも、ライムはインドネシア料理に酸味を加えるためにとても良く使われています。多くのスンバ島のレストランや食堂は地元でとれたライムではなく他の島から仕入れられた値段が高いライムを市場で購入しています。

② 2024年度に実施した支援と得られた成果

村人たちがライムの栽培をできるようになるために次のことを行いました。

① 2,000本の苗木を100世帯に配った

② 各家庭の畑に植え付けた

雨季に入ったことを確認してから苗木を20本ずつ100世帯に配りました。家畜から畑を守る柵にすべく各自の畑のまわりに植え付けました。一部は水が不足したのか枯れてしまいましたが、およそ85%の苗木は順調に育っています。

③ 今後の目標

実がなるよう各自で世話をします。実がなるようになったら各家庭で収穫したライムを集めてレストランや食堂などに販売する活動を行います。



現地の声

ライムはスンバ島の一般家庭でもサンバル(インドネシアの辛い調味料)を作ったり日常的に使っています。私の実家にもライムの木があります。みんなで栽培して市場で売れるくらいたくさんのライムを収穫できるようにしたいです。

—現地NGOマラダのマリア



スンバ島農村部の所得向上支援③

キノコを作って売って現金収入を増やす



◀キノコ作り研修に参加し、菌床を作る村人たち



◀菌床にする培地を準備



◀菌床を高温で蒸して殺菌



◀無菌の菌床に種まき

①現地の抱える問題

スンバ島でキノコを作る人はほとんどいません。キノコが必要なレストランはジャワ島など他の島から高い送料を払って仕入れています。スンバ島産の安くて新鮮なキノコが欲しいというレストランからの要望がありました。

②2024年度に実施した支援と得られた成果

村人たちがキノコの栽培をできるようになるために次のことを行いました。

- ①キノコの栽培施設を建設
- ②キノコ栽培の研修を実施
- ③村人が収穫したキノコの販売にチャレンジ

キノコ作り講師を招いてキノコの作り方を学びました。建設したキノコ栽培施設に菌床400個を置き、収穫できるようになるまでキノコを育てました。10%の菌床は腐ってしまいましたが、その他はしっかりキノコが生えて、収穫して販売もすることができました。

③今後の目標

まだやっと収穫できるようになったばかりですが、今後は菌床を増やして毎日収穫できるようになることを目指します。そして、レストランなど定期的に納品できる売り先を開拓します。

現地の声

キノコを栽培するのは初めてでしたが、研修で一からやり方を教わったので、初めてでも収穫までたどり着けました。研修に参加できて良かったです。次は売れるようにレストランなどに打ち合わせに行く予定です。

——研修参加者モニ



村人が水を使えるように 電気も燃料も不要の水車ポンプ開発



◀ 川の水を畑まで汲み上げることに成功



◀ 材料の買い出し



◀ ポンプの組み立て作業



◀ 畑に汲み上がった水の確認

① 現地の抱える問題

スンバ島は丘陵地帯がどこまでも続く島です。川は通常谷の低いところを流れています。私たちが農業支援や植林活動をするには水を必要としますが、人力で汲んでいるため使える水の量が限られています。その結果、野菜を作れるようになって畑を広げられませんが、植林は雨が降る雨季にしかできません。

② 2024年度に実施した支援と得られた成果

ポンプ開発ツアーを実施し、日本から渡航したボランティアさんとスンバの人たちが協力して次のことを行いました。

- ① ポンプの組み立て
- ② 川での実験
- ③ 故障したポンプの修理

実験では、川の水面から3メートル上方の畑に水をくみ上げることが出来ました。現地NGOや村の人たちには組み立て方や修理の仕方を学んでもらいました。ツアー終了後に故障したポンプは現地の人たちだけで修理することができました。

③ 今後の目標

まだ一つの川でしかポンプの実験をしていません。今後は深さや流れる速さの違ういくつかの川に置き他の川でも使用可能か実験します。そしてポンプに多少の調整をすることで色々な川で使えるように改良したいと考えています。

現地の声

組み立てに参加しました。
このポンプ開発は革新的な出来事だとも思います。なぜならこのポンプはスンバ島民に貢献できるからです。日本人とスンバの人たちが協力してポンプを作ったのがとても良かったです。

—組み立て参加者アテンド



日本人ボランティアとスンバの人たちが力を合わせて スンバ島ポンプ開発ツアー



◀ 清掃後きれいになったマングローブの海岸で



◀ 高校で国際交流



◀ 町の市場散策



◀ 伝統村訪問



◀ 民家の水質検査



▲ 水質検査キット

▼ 温湿度計



2024年9月15日～24日までポンプ開発ツアーを行い、総勢11名の日本人がスンバ島に渡航してポンプの組み立てや実験を行いました。ポンプ開発については7ページをご覧ください。こちらでは、ポンプ開発以外に参加者の皆さんが体験したことをご紹介します。

今回のツアーでも長年交流しているワインガブ第三高校を訪問しました。高校生たちとゲームをしたり、過去に一緒にマングローブを植えた海岸の清掃活動などを行いました。

また、参加者からの希望で伝統家屋と現在の家屋の温度と室温について計測をしました。外国人の私たちには自然の素材で作られた伝統家屋の方がトタン屋根やセメントの住居より涼しそうに感じます。実際のところどうなのか、温湿度計を置かせて頂きデータを取りました。

他にもスンバ島で普段使われている水についても水質を知りたいというご意見が参加者からあり、水質検査キットを使って検査をしました。検査した水は、ホテルの客室、川、民家の井戸、民家の浄水器を使った水になります。

家屋の温湿度も水質検査も参加者がデータをまとめてくれますので、関心のある方はLIFEまでご連絡ください。

その他には、町の市場に行って値段交渉にトライしたり、伝統村でスンバ島の民族衣装の体験や伝統舞踊を見学しました。スンバ島の魅力を存分に楽しめるツアーとなりました。

参加者の声

「ポンプの作りがシンプルなので現地の人でも直感的にポンプの仕組みを理解して、言語が異なる私たちとも共同作業が可能でした。」

(日本から参加したボランティア)

「欲しい工具を一つ買うのにお店をいくつも回らなくてはならないスンバ島の状況に驚きました。」

(日本から参加したボランティア)

「規律を守ること知られている日本人と一緒に作業できたことは良い経験でした。」

(ワインガブ第三高校の高校生)

「日本人が来てくれたおかげで、私たちには自分たちの海岸を守る義務と責任があることに気づかされました。」

(ワインガブ第三高校の校長先生)



校長先生

日本での活動

ご寄付・ボランティアに参加して
LIFEを応援して下さいましたこと、
心より御礼申し上げます。



2025年2月に飯田橋駅で行われた
イベント(ふれあい満点市場)の様子

キャンペーン募金 集計結果



Readyforクラウドファンディング

参加：73組

合計：130万2,000円

ひまわり募金 (7～9月末)

参加：58組

合計：69万1,302円

クリスマス年末募金 (11～3月)

参加：75組

合計：139万円



インターン受け入れ

高校生2組がインターン参加。
これまでのLIFEの事業から説明資料を作成



2024年9月に新宿で行われた
イベント(グローバルフェスタ)の様子

リサイクル寄付 換金結果



・ 切手・ハガキ・金券	597,258円
・ 海外の古銭・紙幣	3,016円
・ 海外の切手・その他	4,690円
・ 使用済の切手	約55kg 27,500円
・ きしゃぼん募金	360点 29,646円

合計：66万2,110円

ハガキ、切手、使用済みの切手、
海外のコインや紙幣、日本の古銭、
金券などを集めてます。詳細はこちら ▶



ボランティアのご協力



- ・ 使用済み切手の仕分けボランティア
- ・ 未使用切手・はがき資金化ボランティア (寄付品整理)
- ・ イベントボランティア
アースデイ
メーデー中央大会
グローバルフェスタ
ふれあい満点市場

この他にもたくさんのボランティアさんの協力で活動を進めることができました。

会計報告

皆様のご支援で活動することが出来ました。

心より感謝を申し上げます。



貸借対照表

2025 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,255,806		
未収入金	405,424		
貯蔵品	292,208		
流動資産合計		1,953,438	
2. 固定資産			
敷金	202,000		
固定資産合計		202,000	
資産合計			2,155,438
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
預り金	55,401		
流動負債合計		55,401	
負債合計			55,401
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		3,425,753	
当期正味財産増減額		△ 1,325,716	
正味財産合計			2,100,037
負債及び正味財産合計			2,155,438

会費の種類

●正会員(個人)
年額1口：12,000円

▼ 詳細はこちら

●正会員(団体)
年額1口20,000円



※正会員費は寄付金控除の対象外です
※正会員になるには申し込みが必要です。
お申し込みは事務局までお願いします。

●賛助会員(個人・団体)
年額1口：6,000円

※賛助会費は寄付金扱いとなります

寄付の方法

当会へのご寄付は、
寄付金控除等の税制優遇の対象です。

● マンスリーサポート
毎月の自動引き落としでご寄付いただけます。

こちらから
決済できます



● クレジットカード決済
【VISA/master card/JCB/American express/Diners Club】

※PayPal/ソフトバンクポイントからも寄付OK

こちらから
決済できます



● 直接振り込む場合

ゆうちょ銀行 019支店
当座預金 0400590

【ゆうちょ記号番号】
00180-9-400590
特定非営利活動法人地球の友と歩む会

スマホ
パソコンから
約5分で完了



活動計算書

2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	312,000		
賛助会員受取会費	186,000	498,000	
2. 受取寄付金等			
受取寄付金	4,306,595		
受取民間助成金	4,079,424	8,386,019	
3. 事業収益			
海外協力事業収益	0		
海外交流事業収益	172,604		
国際理解促進事業収益	217,800	390,404	
4. その他収益			
為替差益	0		
雑収益	22,386		
受取利息	321	22,707	
経常収益計			9,297,130
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,231,630		
通勤交通費	94,594		
法定福利費	391,326		
福利厚生費	27,000		
人件費計	3,744,550		
(2) その他経費			
海外プロジェクト費	2,068,660		
払込手数料	427,939		
広報宣伝費	216,423		
会議費	2,319		
通信運搬費	385,673		
光熱費	55,502		
家賃費用	600,420		
消耗品費	222,110		
旅費交通費	1,863,625		
諸会費	27,000		
雑費	5		
研修費	94,000		
会場費	1,800		
仕入費	88,220		
交際費	0		
支払報酬	201,892		
その他経費計	6,255,588		
事業費計		10,000,138	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	359,070		
通勤交通費	10,510		
法定福利費	43,481		
福利厚生費	3,000		
人件費計	416,061		
(2) その他経費			
払込手数料	50,803		
広報宣伝費	21,770		
会議費	990		
通信運搬費	34,761		
光熱費	6,167		
家賃費用	66,708		
消耗品費	14,191		
旅費交通費	337		
諸会費	3,000		
支払報酬	7,920		
その他経費計	206,647		
管理費計		622,708	
経常費用計			10,622,846
当期正味財産増減額			△ 1,325,716
前期繰越正味財産額			3,425,753
次期繰越正味財産額			2,100,037

助成金 ご協力

(順不同・敬称略)

公益財団法人生協総合研究所：
スンバ島農業研修助成金

ラッシュジャパン合同会社：
スタディツアー助成金

日本労働組合総連合会：
スンバ島キノコ栽培支援助成金

公益財団法人三菱UFJ国際財団：
スタディツアー助成金

一般財団法人ゆうちょ財団：
スンバ島農業支援助成金

皆様のご支援で2024年度も
支援活動を進めることが
出来ました。

心より御礼を申し上げます。

事務局・役員一同

LIFEの支援に関する主なSDGs

LIFEが解決したい目標



問題解決のために大切にしたい目標



世界が目指す17のゴール



団体名	特定非営利活動法人 地球の友と歩む会
英語名	LIFE: Live with Friends on the Earth
所在地	〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル503
最寄駅	飯田橋駅 (各線より徒歩5分)
TEL	03-3261-7855
FAX	03-3261-9053
e-mail	life@earth-ngo.jp
URL	https://www.earth-ngo.jp/
法人番号	5010005004874
設立年月日	1999年10月13日
認定期間	2021年12月13日から 2026年12月12日まで

■協賛

リサイクル募金
ましゃぽん



本・DVD・ブランド品・貴金属などの査定額がLIFEへ寄付されます。
更に査定が付けば運営会社より1件当たり100円の寄付が入ります。

■協力団体

PR TIMES



LIFEではこれらの団体が行う非営利団体プログラムを利用しています。

いいね！でLIFEの活動を応援してください！



@lifetokyo



@life_insta_official



@life.ngo



地球の友と歩む会ちゃんねる